学校番号	２１０１

平成３１年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱｂ	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	「数学Ⅱ　Advanced」（東京書籍）						
副教材等	準拠問題集「PRIME　数学Ⅱ＋Ｂ」　（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、みずから考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。

２　学習の到達目標

指数関数・対数関数および微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数学的活動を通して，いろいろな関数および微分・積分の考え方に関心をもつとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識し，それらを事象の考察に活用しようとしている。	数学的活動を通して，いろいろな関数および微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身につけ，事象を数学的に捉え，論理的に考察し，表現するとともに，過程を振り返り多面的・発展的に考える。	数学的活動を通して，いろいろな関数および微分･積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し，処理する仕方や推論の方法を身につけ，的確に問題を解決する。	数学的活動を通して，いろいろな関数および微分･積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解し，基礎的な知識を身につけている。
評価方法	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等	単元テスト 定期テスト ワークシート 観察等	確認テスト 単元テスト 定期テスト 観察等	確認テスト 単元テスト 定期テスト 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
中間考査まで	指数関数・対数関数	1節　指数関数					a: 指数の拡張や指数関数，対数関数に関心をもつとともに，指数や対数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し，事象の考察に活用しようとしている。 b: 事象を指数関数や対数関数を用いて考察し表現したり，その過程を振り返ったりすることを通して，関数的な見方や考え方を身につけている。 c: 指数や対数の値を求めたり，指数関数や対数関数を用いて数量の変化を表現したりすることができる。 d: 指数や対数および指数関数や対数関数の基本的な概念，性質などを理解し，知識を身につけている。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
		指数法則	○			○		
		累乗根			○	○		
		指数の拡張			○	○		
		指数関数とそのグラフ		○	○	○		
		2節　対数関数						
		対数とその性質			○	○		
		対数関数とそのグラフ		○	○	○		
		常用対数	○		○			
	微分と積分	1節　微分係数と導関数					a: 微分法や積分法に関心をもつとともに，微分法を用いて関数の値の変化を調べたり，積分法を用いて数量を求めたりすることの有用性を認識し，事象の考察に活用しようとしている。 b: 事象を微分法や積分法を用いて考察し表現したり，その過程を振り返ったりすることを通して，数学的な見方や考え方を身につけている。 c: 微分法を用いて関数の値の変化を調べたり，積分法を用いて数量を求めたりすることができる。 d: 微分法や積分法の基本的な概念，原理・法則などを理解し，知識を身につけている。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
		微分係数	○	○	○	○		
		導関数			○	○		
期末考査まで		2節　導関数の応用						
		接線			○	○		
		関数の増減と極大・極小	○		○	○		
		関数の最大・最小		○	○			
		方程式・不等式への応用		○	○			
		3節　積分						
		不定積分			○	○		
		定積分		○	○	○		
		定積分と面積	○	○	○	○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:数学的な見方や考え方
c:数学的な技能　d:知識・理解